

佐賀県研究成果情報（作成 2020 年 3 月）

[情報名] 露地栽培の佐賀果試 35 号のかいよう病の罹病性と苗木における銅剤の防除効果

[要約] 佐賀果試 35 号はかいよう病に対して罹病性がある。そのため、露地に植栽する際は植栽後からかいよう病防除を行う必要がある。防除には IC ボルドー剤が有効である。

[キーワード] 露地、カンキツ、佐賀果試 35 号、かいよう病、苗木、IC ボルドー剤、防除

[担当] 果樹試験場・病害虫研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 果樹病害

[背景・ねらい] 有望品種である「佐賀果試 35 号」は、かいよう病に対し「やや弱い」品種である。そこで、罹病程度を明らかにするために、本病に罹病している露地のネーブル樹に 35 号を高接ぎし、本病の発生状況を把握する。また、発病程度が異なる露地園地に植栽した 35 号の苗木を用いて、銅剤による防除体系下での罹病性を明らかにして、防除対策の資料とする。

[成果の内容]

- 1．高接ぎした佐賀果試 35 号におけるかいよう病の発生は、青島温州よりも多いが、森田ネーブルより少ない（表 1）。
- 2．現在のかいよう病防除で用いられているコサイド 3000 による防除体系は、かいよう病の発生が極めて少ない園地では本病の発生を抑制できる（表 2）。しかし、かいよう病の発生が認められる園地では不十分である（表 3）。
- 3．露地栽培の佐賀果試 35 号の苗木に対するかいよう病対策として、IC ボルドー66D、IC ボルドー412 を用いた防除体系が有効である（表 3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．本試験は、2018 年から 2019 年に佐賀県果樹試験場で実施した試験である。
- 2．かいよう病に罹病すると樹冠拡大が妨げられるので、佐賀果試 35 号を植栽する際は、本病が極めて少ない園地（地域）を選定する、植栽前に苗木における病害虫の有無を確認する、防風対策等を徹底する、苗木時から防除を徹底する。
- 3．耕種的対策として罹病葉・枝を除去は重要である。特に罹病枝は重要な伝染源なので必ず除去する。
- 4．高接樹では新梢の連続した発生が多いことから、本病の感染リスクが高まるので、高接ぎはしない。
- 5．秋季の気温が高く推移するとともに、強風雨や台風の襲来等があると、11 月頃まで発病が進展するため、新梢の発生状況に応じて防除を加える。

[具体的なデータ]

表1 ネーブルに高接ぎした各品種のかいよう病の発生状況(2018年)

品種名	発病葉率					発病度				
	6/1	7/11	8/14	9/7	11/2	6/1	7/11	8/14	9/7	11/2
佐賀果試35号	5.4	20.4	6.9	6.4	15.2	1.3	3.4	1.1	1.1	3.7
森田ネーブル	8.6	19.5	20.0	20.0	21.2	1.6	3.4	3.9	3.4	3.0
青島温州	0	1.0	0.4	1.4	0	0	0.1	0.1	0.2	0

注1) 佐賀果試35号、青島温州: 1区1枝6反復

注2) 森田ネーブル: 1区1枝3反復

注3) 2017年4月18日に10年生森田ネーブルに高接ぎ

注4) かいよう病防除 ICボルドー66D: (3/28、5/14、6/14、7/10、8/20、9/12)、
コサイド3000+クレフノン: (7/28、9/27)

表2 かいよう病の発生が極少ない圃場に植栽した苗木における本病の発生状況(2018年、2019年)

品種名	発病葉率									
	2018年					2019年				
	6/1	7/18	8/10	9/7	10/10	5/14	6/1	8/7	9/25	11/18
佐賀果試35号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森田ネーブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青島温州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 2018年3月17日定植、1区1樹3反復、全葉調査

注2) かいよう病防除

2018年 コサイド3000+クレフノン: (3/23、4/19、5/14、6/18、7/25、8/20、9/26)

2019年 コサイド3000+クレフノン: (2/26、3/25、4/19、5/15、9/13、7/12、8/1、9/3)

注3) 試験圃場: H21年よりはるみが植栽されているが、かいよう病の発生は極少ない

表3 佐賀果試35号の苗木における各銅剤の防除体系下でのかいよう病の発生状況(2019年)

散布薬剤名	100葉あたり				発病度
	発病葉率 (発病葉数/調査葉数)				
	5/14	6/12	8/9	9/27	9/27
ICボルドー412+アビオンE	0 (0/500)	0 (0/600)	0 (0/600)	0.2 (1/956)	0.02
ICボルドー66D+アビオンE	0 (0/600)	2.3 (14/600)	1.8 (17/786)	2.9 (26/1030)	0.9
ムッシュボルドー+クレフノン	0 (0/500)	0.7 (4/500)	0 (0/690)	5.9 (26/824)	6.6
コサイド3000+クレフノン	0 (0/700)	0.6 (5/650)	0 (0/683)	12.9 (67/1169)	2.2

注1) 1区1樹2~4反復、100~400葉/樹調査

注2) 2018年3月20日定植

注3) 試験圃場: 植栽しているネーブルでかいよう病が多発生している圃(表1と同圃場)

注4) かいよう病防除

ICボルドー66D: 3/1、3/25、ICボルドー66D+アビオンE: 4/19、5/15、試験薬剤: 6/19、7/16、8/16、9/3

[その他]

研究課題名: 果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2017年~

研究担当者: 近藤知弥・衛藤友紀・池田亜紀